

平成27年度在宅医療・介護連携拠点事業 第1回認知症ケア研修会 事例提示票

■ ケースタイトル

親族支援の得られない独居高齢者への関わり

■ ケース概要

本人79歳、女性、独居（結婚歴なし）。要介護1。つくば市で生まれ県外で働いていたが、4年前につくばに戻る。借家の大家さんより包括支援課に相談が入った。最近本人の幻覚・幻聴がひどくなっており、一度訪問してほしいと依頼あり。本人より「家の前の空き地に何百人もの人がいる。毎晩若い男女が来て調味料から衣類まですべて持って行ってしまふ。」等の訴えあり。常に男の人が話をしているように聞こえているようで実際に会話をはじめることもある。猫もいないのに猫の餌を用意しているというような状況。

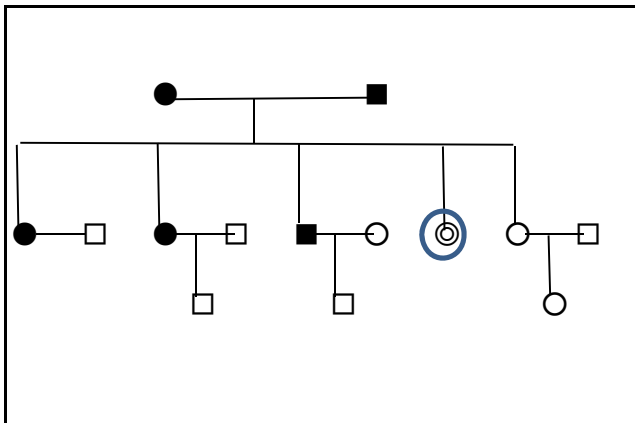
受診状況は、膝の痛みで以前住んでいた県外の病院に2ヶ月に一度タクシーで受診しているのみ。市内での受診歴はない。包括より親族に受診を依頼したが全て拒否される。よって、包括で市内医療機関への受診支援をする。レビー小体型認知症と診断（アリセプト処方）を受ける。同時に介護保険の申請を行う。

本人は食事也十分にとれていない状態で、入浴や洗濯なども満足に出来ていない。金銭的には、生活出来るだけの年金額はあるはずだが、年金が入ると全て引き出し、食べられない程の量の惣菜を買い込んだりして困窮している状況。両下肢の皮膚に直接カイロを貼ってしまい低温やけど状態（デイにて処置）を起こしたりしている。また、焦げたタオルが干してあり、大家さん家族がかなり心配することもあった。

サービス導入後は、通所介護を2回/週、訪問介護を2回/週で利用。拒否はないが知らない顔には警戒が強く、初めてのヘルパーには「あなたのことは知らない」と拒否することもあった。また、金銭管理について日常生活自立支援事業の利用の検討を行っている。

H27.3月、以前居住していた近隣県の駅で夜間にうろついていたところを、警察官に保護される事態となった。親族に連絡を取ったようだが、引取りを拒否。本人の所持品から居宅事業所に連絡が入り、警察車両で送り届けてもらう。体調に問題はないが、緊急でショートステイの利用となった。

■ 家族構成



■ 介護者・家族の状況

- ◆大家:生活全般の面倒を見ていたが、最近は幻覚や幻聴が強くなったので、出来れば施設入所をしてほしいと考えている。火事を出されては大変だとの思いも強い。
- ◆実家:兄が死亡し、兄嫁と甥がいるが、関わりは拒否。
- ◆甥:近くに居住。トラックに乗っており、時々、ごみ捨て等で訪問。関わり拒否。
- ◆従兄:近所に住み、つくば市への引っ越しを手伝ったが、本人よりの拒否がありしばらく関わりを持っていなかった。
- ◆実妹:近隣県に居住。以前は、本人が妹に金銭的な支援をしていたようだが、本人が現在のような状況になってからは関わりはないよう。

■ 主疾患

レビー小体型認知症

■ 受診状況

以前から受診していた近隣県の医療機関に1回/2ヶ月タクシーで受診。その後、包括で受診支援し、市内医療機関に2回程受診

■ 介護保険(サービス内)

要介護1、通所介護2回/週 訪問介護2回/週

■ 経済状況

厚生年金(27万円/2ヶ月)

■ 住宅環境

貸家 2間+台所+トイレ+浴室(使用できず)

■ ADL状況 ランク:

■ IADL状況

【移動】	自立	ふらつきあり。小刻みでゆっくりとした歩行。	【調理】	炊飯は時々している。調理も数回台所に調理した跡を確認している。
【食事】	自立	コンビニで購入した総菜やパンなどを食べている。	【洗濯】	タオル類などを手洗い。その他の物は洗濯している様子なし。
【排泄】	自立	失禁の様子なし。	【買物】	近くのコンビニのみ。

【入浴】	一部介助	通所介護にて入浴。自宅ではなし。	【掃除】	訪問初期は窓を拭いている姿があったが、その後はほとんど出来ていない。
------	------	------------------	------	------------------------------------

■精神状況

【認知症の状況：自立度】 ランク：Ⅲb 幻聴・幻覚あり。夜間男の人が来て自分を殺しに来て追払った等の話あり。 通所先に行く時は、誰もいない空間に向かって「行って来ます」と話す。泥棒に入られるので色々なものを持って行かれる。常に男の人の話し声が聞こえている。(猫はいないが)猫の餌を用意している。	【服薬】	認知症薬(調整中)・降圧利尿剤・皮膚を保護する為の軟膏 アリセプトD5mg、アルダクトンA25mg、バイアスピリン100mg、メネシット配合錠100mg
	【金銭管理】	自己管理だが、あるだけ下してしまい失くしてしまう。 日常生活自立支援事業検討中。

【本人の意向】	泥棒が来て色々盗んでいくので、夜も寝ていられない。サービス利用に関しては拒否はない。日常生活自立支援事業導入も受け入れはよい。ずっと一人では不安があり暮らせない、いつか施設に入りたい。
【家族の意向】	一度手を出したら最後まで面倒をみななければならないので、関わりたくない。
【関係者の意向(不安・課題)】	支援者のいない状況で、どこまでサービスを導入して在宅で生活できるのか。

■生活歴 経過

<p>市内生まれ。5人兄弟の4番目。独居。結婚歴なし。実の妹のみ生存しており近隣県に在住(連絡とれず)。妹は以前から、本人より金銭的な支援を受けていたようだが、本人が認知症を発症し、現在のような状況になってからは関わりはない。</p> <p>本人は、都内の映画会社で働いていた。エキストラや掃除等の仕事をしていたようで、仕事の話は良くしている。退職後は、実妹がいる近隣県で生活していた。近くに友人もおり生活を送っていたが、4年程前、実姉を介護するため市内へ引越しをした(借家)。親戚の方がごみ出しや買い物等で関わりを持ってきていたが、認知症の発症により幻覚や幻聴がひどくなり、親戚の方に「泥棒に来るなら来ないでほしい」と言ったことから関係性が悪化してしまった。この頃は、受診もタクシーを利用し、県外の医療機関に通っていた。(1回/2カ月)</p> <p>大家さんとの関係は良好。面倒見が良い方で、おかずを持ってきてくれたり、度々様子を見に行ってくれている。本人は大家さん宅を訪れることが多く、半日ほど居座ってしまうことも多かったが、じっくりと話を聞いてくれた。自宅の様子は、一つの居室に筆筒が3棹あり、もう一室には布団がひきっぱなしの状況になっている。以前の主治医からの内服や湿布などがごみ袋に多量に入っている状態。他の人に見られないようにカーテンやサッシはあまり開けない。テレビは壊れている。寒い冬の時期も暖房は小さな電気ストーブのみ。適宜お湯を沸かして、湯たんぽで対応していた様子。買い物や年金引き出しなどは近くのコンビニで行っていたが、徐々にそれも出来なくなってきた。</p>

■検討課題

①今回、徘徊により以前住んでいた県外で保護された。自宅に戻った場合、同じことが繰り返される危険性がある。現在のサービス(通所介護2回/週、訪問介護2回/週)では隙間が出来てしまう。
②認知症による問題行動(言動)から親族との関係性が悪化してしまった。今後、入院や施設入所等を考えた場合、親族との関わりが必要となる。関係性の再構築はどのようにしたらいいか。
③認知症の症状が悪化し、幻覚・幻聴に加え徘徊等の問題行動が現れている。今後、本人をどのように支えていけばいいか。